

天文学と猫 第51回 プラネタリウム



www.tenpla.net



今月のお題

星と風のカフェ オープン！



さまざまな組織、グループが協力して、東京都三鷹市に“宇宙”をテーマにしたカフェをオープンすることになりました。

高梨直純 (国立天文台 広報普及室)

平松正顕 (台湾 国立清華大学)

7月7日の七夕にあわせ、国立天文台のある東京都三鷹市に「星と風のカフェ」がオープンします。もともと障害者自立支援NPO「はなの会」が運営していたカフェをリニューアルオープンするにあわせ、国立天文台や武蔵野美術大学、そして天プラの協力の下、宇宙色を出したカフェ・スペースになります。どのような経緯でオープンに至ったのか、天プラはどのように絡んでいるのか、今後の展望と合わせて紹介しましょう。

宇宙でつなげる活動の輪

「カフェのリニューアルに協力して欲しい」。そんな依頼が、国立天文台を経由して天プラに届いたのは今年の3月のことでした。聞けば、障害者支援活動を行っている団体の運営するカフェに、より多くの人たちが立ち寄ってくれるよう宇宙色を出した空間に作りかえたいとのこと。以前よりカフェスペースでのイベント運営に取り組んできた天プラとしては、渡りに船と事業に協力することになりました。はなの会に対し

て国立天文台が協力し、実働部隊として武蔵野美術大学の有志や天プラが関わるとい形です。

具体的に天プラに求められている役割は2つ。カフェで販売する宇宙グッズの開発、イベントの運営です。宇宙グッズに関しては、新製品「ムーンフェーズ・クッキー」をプロデュースしました。おいしいクッキーを食べながら月の位相についても学べるというちょっとスペースなアイテムとなっています。イベントに関しては、天プラが主体となって行うサイエンスカフェの他、子育て支援活動を行っているグループや在日外国人の支援グループなど、天プラを通じて三鷹地区で活動しているさまざまな団体と結びつけたイベントを立ち上げる予定です。

これまで天プラでは幼・老・障をターゲットとした天文普及活動に取り組んできました。小学校低学年（幼）や高齢者（老）、さまざまな意味で宇宙を楽しむ上での障害を抱えた人（障）をターゲットとした天文普及活動です。「障」という言葉には、例えば児童病棟に入院している子供や小さな子供を抱えた母親、あるいは在日外国人など広い意味を持たせているのですが、今回まさに「障害者自立支援活動」をしている



タイのバンコクに行ってきました。天文グッズは発見できませんでした、残念。(高梨・左)
研究所の面々と阿里山を訪れた平松。阿里山森林鉄道の線路にて。(平松・右)

グループから協力を申し込まれたことはなかなか感慨深いものがありました。事業を通じて障害者の方々およびそれを支える人々と関わる中で、どのような宇宙の楽しみ方が提案できるかをじっくりと探っていきたいと考えています。